

新型コロナウイルス感染症の罹患後症状 (いわゆる後遺症) について

医療法人 小金井中央病院
外科医長 笠原 尚哉

コロナ後遺症は COVID-19 罹患後に感染性はなくなったにもかかわらず、急性期から持続する症状や、経過の途中から新たに生じて持続する症状全般のことをいいます。罹患時に無症状でも後遺症を来すことがあります。

頻度が高く程度の強い自覚症状は、倦怠感、思考力・集中力の低下、運動後倦怠感、不眠、頭痛、息苦しさです。

なかでも特徴的なのは、思考力・集中力の低下と運動後倦怠感です。思考力・集中力の低下では「脳に霧がかかったような感じ」と表現される「ブレインフォグ」がみられ、長時間や深い思考が困難になります。



運動後倦怠感は、「身体的または精神的労作の5~72時間後に強い倦怠感または痛みなどの症状が出現する」状態を指し、筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群という病気と共通する症状です。

他にも咳・味覚障害・嗅覚障害など急性期から持続する症状がありますが、こちらは徐々に改善することが多いようです。



コロナ後遺症のメカニズムとしてはウイルスに感染した組織（特に肺）への直接的な障害、ウイルス感染後の免疫調節不全による炎症の進行、ウイルスによる血管損傷・虚血（十分な血流がいきわたらなくなる）や重症者の集中治療後症候群などが挙げられていますが、まだよくわかっていません。



コロナ後遺症が永続するかは不明ですが、国内で COVID-19 と診断された全例を追跡した報告では罹患後 6 カ月後・12 カ月後にも少なくとも 1 つ以上の症状が持続したのはそれぞれ 26.3%・8.8%でした。現時点ではコロナ後遺症の確立された治療法はなく各種の対症療法が試みられている状況です。

コロナ後遺症が疑われて受診する方の中には亜鉛欠乏症・副腎不全・睡眠時無呼吸症候群・膠原病などの病気が合併・併存することが知られています。

これらの病気は治療法がありますので、コロナ罹患後に体調がすぐれない場合はお気軽にかかりつけ医師にご相談ください。



あなたは薬をいくつ内服していますか？

医療法人 小金井中央病院
薬局長 阿部 明子

「薬が多くて、飲むのが大変」
「種類が多いから、飲み間違っていないかな？」
「薬を飲んだけど、体の調子がいつもと違う気がする」



などと感じることはありませんか？

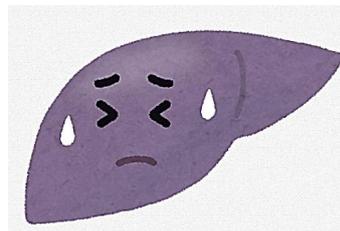
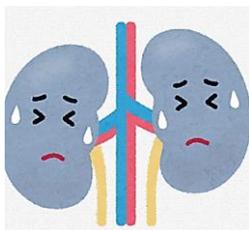
75歳以上の高齢者の4割は5種類以上薬を使っています

高齢になると、複数の病気を持つ人が増えてきます。
病気の数が増えて複数の医療機関を受診することも、薬が増える原因のひとつになります。

高齢者では、使っている薬が6種類以上になると、

副作用を起こす人が増えるというデータがあります

高齢になると肝臓や腎臓の働きが弱くなるため、薬を分解したり体外へ排泄するのに時間がかかるようになります。そのため、薬が効きすぎてしまったり、逆に効かなかったり、副作用が出やすくなったりします。



薬を飲んでいて、次のような症状が気になることはありませんか？

- ・ 眠気
- ・ 気分が沈む
- ・ 物忘れ
- ・ 食欲低下



- ・ ふらつき
- ・ めまい
- ・ おしっこが出にくい
- ・ 便秘

薬が追加されたり変わったりした後は、特に注意しましょう。

気になる症状があっても、勝手に薬をやめたり、減らしてはいけません

薬が多いからといって必ず減らすべきということではありません。薬によっては、急にやめると病状が悪化したり、思わぬ副作用が出る場合があります。必ず、かかりつけの医師や薬剤師に相談しましょう。

お薬手帳を使いましょう

薬の相談をするには、お薬手帳が役に立ちます。病気ごとに異なる医療機関にかかっている場合でも、お薬手帳は1冊にまとめましょう。薬以外で毎日飲んでいる健康食品やサプリメントがあれば記入しておきましょう。気になる症状がある時は、いつ頃から、どのような症状が出てきたかメモしておくといいでしょう。

